

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01867

研究課題名（和文）身体文化の多様な価値を共有するためのスポーツ・アーカイブズのモデル構築

研究課題名（英文）Building a model for sports archives to share the diverse values of physical culture

研究代表者

来田 享子 (Raita, Kyoko)

中京大学・スポーツ科学部・教授

研究者番号：40350946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 31,300,000円

研究成果の概要（和文）：近年、スポーツ・デジタルアーカイブ（SDA）への注目が高まっている。本研究では、スポーツに関する静的・動的資料のデジタル・アーカイブ化のモデルを構築し、SDAの意義とスポーツを通じた教育に与える可能性について検討した。スポーツに関わる歴史的文化的資料のデジタル・アーカイブ化の重要性は、これまであまり認識されてこなかった。一方、人間の身体やパフォーマンスに関わる多角的な記録やデータも、SDAのコンテンツに含めることができた。SDAを効果的に活用することによって、スポーツを通じた教育には、異なる時代や社会における歴史的な身体経験を追体験し、共有し、継承するという新しい挑戦が可能になると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究がモデルとして構築したスポーツ・アーカイブズは、時と場を越え、動的な文化資源を含めたスポーツの歴史を蓄積し、俯瞰的・全体的に捉えることを可能にする点に特徴がある。これまで、国際的スポーツ・イベントの開催を控えた国々では、レガシーの創出は事業型の実施に依拠してきたが、イベントと同時に事業が終了し、その持続性に課題があるとされてきた。本研究の結果、スポーツの文化資源を実物資料として保存するだけでなく、デジタル・アーカイブ化することにより、スポーツの記録と記憶が継承され、広く一般市民や学校教育現場等の多様な人々が活用可能になる可能性が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Recent years have seen growing interest in sports digital archives (SDA). This study developed a model for the digital archiving of static and dynamic materials about sports, and examines the significance of SDA and their potential for education through sport. The importance of digital archiving of historical and cultural materials related to sport has not been well understood. Multidimensional records and data related to the human body and performance can also be included in SDA content. Effective SDA use may provide a new challenge for education through sport to relive, share and pass on historical physical experiences from different eras and societies.

研究分野：スポーツ史

キーワード：スポーツ・アーカイブズ スポーツ博物館 オリンピック オリンピック教育 多様性

1. 研究開始当初の背景

身体文化としてのスポーツは、多様な文化の中で生きる多様な人々によって構成された社会との相互関係の中で醸成されてきた。言い換えれば、スポーツはそれが醸成された社会を映す鏡であると同時に、人間の身体を通じて社会に影響を与え、その変容を促すものでもある。このようなスポーツの歴史や現在は、可能な限り多角的に捉えられた「時空間を越えた全体像」として多様な人々の目に触れ、その多様な価値が共有されることを通じて、社会の未来を展望するための「レガシー(遺産)」となり得る。

スポーツやスポーツ・イベントがもたらすレガシーについては、近年ではオリンピック・ムーブメントを促進しているIOCも重視している。IOCによる着眼は、1980年代後半以降のオリンピック大会の商業主義化、市場競争や勝利至上主義への批判(Martin, 1996)が指摘する弊害を乗り越えるための戦略であるともいえる。IOCが提示するようなスポーツにおけるレガシーの概念については、一定の研究結果が示されている(Cashman, 2005やHolger, 2007)。ここでは、スポーツやスポーツ・イベントのレガシーが時と場の影響を受けると同時に、計画的・正負両面の効果・明示性などが複雑に絡み合うものであることが明らかにされている。これらの研究成果を踏まえながら、IOCは2013年にオリンピック・レガシーを5つに類型化して提示した(IOC, 2013)。このうちIOCが社会的レガシー(Social Legacies)に分類するものは、より良い自分をめざすこと(卓越性)、他者理解、尊重等、オリンピズムの中核をなす諸価値にもとづき、多様な人々が公平・公正に共生する社会をめざす活動が含まれる(来田, 2014)。直近の事例では、2012年ロンドン夏季大会の大会テーマであった「多様性と包摂」に対する戦略や影響に関し、組織委員会がビジネスや教育など他分野で応用することをめざした評価報告書(LOCOG, 2012)をまとめた他、学術的にも検証がなされている(森野, 2012)(Baker, 2014)。このようなスポーツ組織側からのレガシーに関する提案は、冒頭で述べたような社会における身体文化の歴史や現在から未来を展望するという、より広い観点でのレガシーの概念と部分的に重なるものである。

本研究では上述のような文脈に位置づけられるスポーツのレガシーを「社会的レガシー」と呼ぶこととする。本研究は、この社会的レガシーの一形態として、多様な人々のアクセスが可能であり、スポーツに関わる多様な価値を共有することができる場としてのスポーツ・アーカイブズのモデルを構築することを目的とする。

社会的レガシーとしてのスポーツ・アーカイブズの構築は、身体文化に関わる学際的研究の成果としてのみ達成が可能である。このような研究のパラダイムのひとつとして「多様性」をおくことができる。スポーツと多様性に関する研究では、文化・教育・社会的格差等に関わりなくスポーツへのアクセスの機会を確保する必要性(McCarthy, 2010)やスポーツに主体的に関わる人々が文化多様性を理解するための教育プログラムの必要性(Marra, J., et al., 2010)、スポーツそれ自体の多様性が促される必要性(西山, 2001)が明らかにされている。さらに最近では、様々な社会的属性をもつ人々の共通性に注目することによって、スポーツに関わる平等な権利の保障が達成されるとの主張もなされている(Jespersen, 2015)。

これら先行する研究は、社会的レガシーの要件として、現実の身体活動に疎遠ないし困難を抱える人々にとってもアクセスが可能であること、教育的機能を有すること、勝利という一元的価値に特化したスポーツだけでなく、多様な価値を共有するための身体感覚が掘り起こされることを通じ、スポーツそれ自体の多様化が促されること、を示唆している。

スポーツに関わる文化においてこの要件を満たす形態のひとつにスポーツ博物館がある。国内には秩父宮記念スポーツ博物館・図書館のように50年を超える歴史を持つスポーツ専門の博物館がある。また「地域における総合的『身体教育』のための『場』の検討」(2003-2004年度、研究代表者：久保正秋、基盤研究(C))、「スポーツ歴史・文化情報の蓄積とデジタル資料化に関する研究」(2000-2002年度、研究代表者：矢島ますみ、萌芽研究)等の先行研究は、本研究の基礎的知見を提供している。文部科学省においても次世代型の文化資源の保存・公開・活用のためのデジタル・アーカイブ化が検討されている。一方、既存の検討においては、スポーツにおける社会的レガシーの要件が部分的に引き出されるに留まるとともに、アーカイブ化の対象には、スポーツに固有のレガシーとなり得る「動的な」身体の動作記録や再現は含まれてこなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多様な人々のアクセスが可能であり、スポーツに関わる多様な価値を共有することができる場としてのスポーツ・アーカイブズのモデルを構築することである。前記の学術的背景および問題意識にもとづき、本研究では、既存の国内スポーツ博物館が有する機能と大学に蓄積された静的・動的なスポーツ関連文化資源、元オリンピック選手(オリンピック)による教育活動を有機的に接続することによって、従来の博物館の展示機能・展示内容・教育機能を以下に示す3方面に拡張し、社会的レガシーの創造に寄与するスポーツ・アーカイブズのモデルを構築することをめざした。

なお本研究が構築をめざすモデルの射程は、研究組織を構成する研究者の専門性および研究期間内での達成、波及効果の観点から、オリンピック・パラリンピックに関連するものとした。

3. 研究の方法

従来のスポーツ博物館の機能を上述の3方面に拡張するために、以下の研究課題を設定した。

<課題1> 展示空間の拡張A：この課題では、当初、秩父宮記念スポーツ博物館・中京大学・学習院女子大学・筑波大学に所蔵された文化資源を同一テーマにもとづき選定し、4次元仮想化し、スポーツ文化の継承を意識した4次元空間として展示する技術の開発をめざした。しかし、本研究に着手した時点で、国内のスポーツ文化資源のデジタル・アーカイブ化が想定よりも進んでいないことを踏まえ、汚損・劣化の激しいメダルの高精細な3D化に重点的に取り組むこととした。また、身体動作の記録等の動的なスポーツ文化資源の活用方法を検討した。

<課題2> 展示空間の拡張B：この課題では、既存の専門的博物館と関連させ、スポーツ文化資源の展示を教育機関で展開することにより、展示や実物に触れながら多様な人々が交流するためのスキームを検討した。この課題によって、既存のスポーツ博物館および課題1の展示空間の教育効果を補強することをめざした。スキームの検討は、(1)オリンピックに関わる芸術作品を対象とする検討、(2)オリンピックにまつわる文化資源を対象とする検討に区別し、課題1で設定したテーマの下位に位置づく小テーマを設けて文化資源の展示を実施し、教育における利活用を中心に検討を行った。いずれの大学においても博物館学を専門とし、学芸員養成課程を担当する研究者が中心となって、この課題の研究にあたった。

<課題3> 文書史料の共有：研究代表者らはこれまで、中京大学内に所蔵された第5代JOC会長アベリー・ブランデーが遺した文書史料のデジタル・アーカイブ化を試みる研究を進めてきた(Ito, et.al., 2014 および 2015)。この研究において構築した検索用プログラムについて文書史料を増やしながらか精度を高め実用化を図った。

<課題4> 教育機能の拡張：研究代表者らは「オリンピックを対象とするオリンピック教育のモデル構築に関する研究」(2012-2015年度, 基盤(B))を実施し、オリンピックによるオリンピック教育の実施形態や教育効果の検証を行ってきた(来田ら, 2014)。この研究を通じ、様々なスポーツ組織と社会的ニーズを接続するために必要なオリンピックに関する情報の集約がなされていないことが明らかになった。研究実施期間中に、国内オリンピック委員会によるオリンピック代表選手のデータベースが発行された。そのため、代表選手のプライバシーを尊重しつつ、選手の固有のストーリー(情報)をより詳しく検索することができるシステムのモデルを作成する研究方法とすることに切り替えた。

<課題5> 教育機能の補強：上述の課題4で示した研究代表者らの研究では、講師を依頼されたオリンピックが自らの経験を言語化し、オリムピズムと結びつけながらそれを教材化して学習者に提供するために不可欠な学習内容の検討を行った。この研究では学習によりオリンピックの社会貢献意識の高まり・オリンピックの経験の社会還元の両面で効果があることが検証された。一方、オリンピックの学習機会の地域格差や時間的な制約があることが、学習における大きな障壁となることも明らかになった。当初の計画では、オリンピックがEラーニングによって学習を行う仕組みの構築を想定していたが、JOC等においてオリンピックの研修活動が盛んになったことを踏まえ、一般市民向けの講座等において、課題1および課題2の研究成果を利活用するための方法論を検討することにより、教育機能の補強をめざした。

<課題6> 個の尊重と多様性確保のためのモデル検証：本研究で構築するモデルは、様々なタイプの文化資源のアーカイブを有機的に結びつけ、重層的に利用するため、構築の際の権利義務関係および契約スキームの検討を要するとともに、本研究がめざす文化多様性や多様な人々の人権への配慮に関する検討が欠かせない。この課題では海外の類似したアーカイブズにおける調査を行い、課題1~5を横断的に検証した。

4年間のうち、最初の2年間は、課題1~5を検討する研究班とこれら5つの研究班を随時検証する研究班の計6つのプロジェクトを同時に進行させた。3年目には、課題4と5の研究班は「オリンピックによるオリンピック教育」の実践を通じて、スポーツ文化資源としての実物資料、スポーツ文化資源としての「静的」「動的」資料のデジタル・アーカイブズ(SDA)、高度な文書資料検索システムをスポーツ・アーカイブズのモデルの核として位置づけ、最終年度に各課題の研究成果を統合した。この際、すべての研究班が協働し、関連するスポーツ博物館等の協力を得ながら、従来の博物館の展示機能・展示内容・教育機能を拡張したスポーツ・アーカイブズとして運用し、モデルを提示するための検証および利活用モデルを提示するための教育実践を実施した。

4. 研究成果

(1) 「静的」なスポーツ文化資源のリスト化・デジタルアーカイブ化

本研究課題では、大学および民間が所蔵する「静的」なスポーツ文化資料のリスト化・デジタルアーカイブ化を進めた。4年間の実施によりデジタルデータ化された文化資料は、約36,034点であり、その一部は研究代表者が所属する大学のホームページにおいて、スポーツ・デジタル・アーカイブズ(以下、SDA)として公開する準備を継続している。また、「静的な」スポーツ文化資料のうち、通常展示では全体像の共有が難しい立体物に関しては、メダルを対象に高精細な3D画像化を行った。

また、秩父宮記念スポーツ博物館に所蔵された1964年オリンピック東京大会組織委員会の膨大な資料については、長期的な視点での分類整理が必要であることから、特定のテーマに沿ってこれを進めるための方法論を検討した。スポーツ資料に特有の傾向として、トップ・アスリート等のスポーツ関係者個人とその家族による継承という形態がとられる場合が多く、散逸や劣化を防ぐための組織的対応または制度や仕組みが必要であることが明らかになった。

この研究の過程では、国内全般でスポーツ文化資源を統一的に収集・保管し、データを統合することを可能にする方策の基盤として、何をメタデータとし、どのような情報を入力すべきかについての検討を進めた。その結果、国内で保存されてきたスポーツ資料は、オリンピック・各種競技の国際大会・国民体育大会等の大規模なスポーツイベントにおける活動を記録する資料、スポーツ史上着目されてきた人物に関わる資料、伝統的な身体文化および近代スポーツ移入後に利用されてきた競技用具等の3つに大別された。資料の形態は、メダルやウェア、チケット等に至るまで材質や形状が多岐にわたる実物資料と文書、出版物、写真、映像、音声等の情報資料に区別することができた。これらの項目は、資料の基礎情報を確認するためのメタデータとしては有効であることを確認した。

本研究におけるデジタルアーカイブ化を契機に、国内の関連機関における取り組みが促進されたことは、特筆すべき社会的波及効果のひとつであったと考えられる。現在、関連機関における SDA は、各機関が個別に構築し、管理運営している状況にある。目録レベルに留まっている SDA も多い一方で、メタデータ項目が整理されたことにより、複数のデータベースを複合的・横断的に統合する可能性が視野に入る状況になった。

ただし、SDA の利活用性向上のためには、資料に固有のストーリー（情報）を付与し、検索手段の高度化を図ることが必要であり、極めて地味ながら人的・財的な資源を必要とするような、自然科学系分野でいう基礎研究に相当する研究の継続が研究課題として残された。

(2) スポーツ文化資源を共有し活用するための展示空間や場の拡張

本研究では、2つの展示空間/場を想定し、検討を行った。第一は、公共教育施設、学校、地域等の博物館、商業空間施設などにおいて実施するオリンピック教育やワークショップの教材・資料として効果的に活用する方法の検討である。第二は、「身体文化の多様な価値の共有」を一般市民が経験する場の設定である。研究代表者および分担者が所属する大学において、実物資料と芸術的資料の2種類に区別した展示を開催した。

共有の場の拡張として、実物資料・3D画像・資料のストーリー（情報）を併せた展示、地域の異なる大学における同一テーマでの展示、動的資料の生成と活用事例として「コンパルソリーフィギュア」

を素材としたVR視聴システムの開発、スポーツ科学分野で生成された既存データの活用事例として、短距離走・投擲・体操競技・フィギュアスケートの身体活動データを利用したARシステムによる体感的共有、等を試験的に実施した。実施した展示や教育活動等の一覧は表1に示した。

年	開催期間	内容	会場
2016年	10月18日-11月23日	ゴールするランナー達：オリンピックと芸術	学習院女子大学
2016年	11月4日-6日	スポーツがつなぐ世界Ⅰ 学びと支援が高める共感	中京大学
2016年	12月11日	JOAセッション「聖火 その価値と活用」	立教大学
2016年	複数開催	ワークショップ「トーチの花を咲かせよう！」	パナソニックセンター東京
2017年	2月4日	東京都北区主催イベント「聖火が、北区にやって来た！」	赤羽体育館
2017年	9月19日-23日	競技イベントにおけるスポーツ史料の活用 ダイハツ・ヨネックスオープンジャパン2017	東京体育館
2017年	10月23日-11月5日	スポーツがつなぐ世界Ⅱ 1964年の記憶	中京大学
2018年	2月11日	東京都北区主催市民向けシンポジウムにおけるスポーツ史料の活用	
2018年	3月5日-4月21日	五輪メモリーズ 私のオリンピック東京大会1964	学習院女子大学
2018年	7月13日-7月19日	スポーツがつなぐ世界Ⅲ 手のひらに届いたオリンピック	中京大学
2018年	10月22日-11月4日	スポーツがつなぐ世界Ⅳ 燦めきの先に-氷雪に挑む	中京大学
2018年	複数開催	オリンピック・ビレッジ資料を用いた子ども向けワークショップ	パナソニックセンター東京
2019年	3月19日-4月26日	ムーヴィングイメージ オリンピックの映像アーカイブズ	学習院女子大学
2018年	9月11日-9月16日	バドミントン文化史展示-1960-70年代の日本女子黄金期を築いた3人の女性アスリート	武蔵野の森総合スポーツプラザメインアリーナ
2019年	10月～	中京大学スポーツミュージアム常設展「オリンピックの光と影」「真剣味の殿堂」、企画展「日本マラソンの父 金栗四三」「多様性に向けたオリンピックの歩み」	中京大学
2020年	3月（新型コロナウイルスの感染拡大により中止）	スポーツアーカイブズ-学習院女子大学とオリンピック	学習院女子大学

(3) 文書資料を共有するための検索機能の高度化

研究代表者らが過去に収集したオリンピック関連資料のうち、特に書簡に着目し、人物やキーワードを手がかりに時代間の繋がりがや関連の度合いを検索結果として表示するためのシステムを構築した（図1）。

従来の約120年間におよぶオリンピック史研究においては、クーベルタンの理念、繰り返し議論がなされたテーマ、用語が変化しながら問われたスポーツの価値に関する議論については、時代的・地理的要因を限定した検討が行われてきた。これは研究者個人が縦断的・横断的に検討可能な歴史資料には、時間的・財的な観点での制約があったことによる。本検索システムにより、この制約がない中での歴史的事実の解明が期待できる。研究期間内にデジタル・アーカイブ化ができた資料に限り

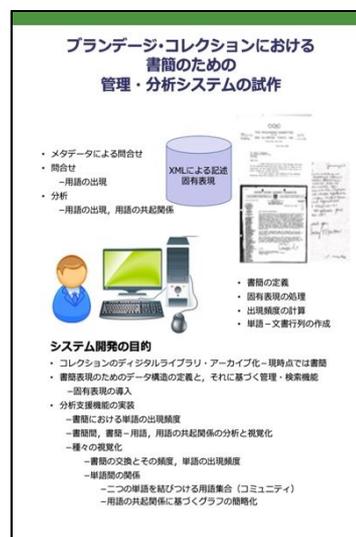


図1 試作した文書管理・分析システムの概要

があり、オリンピック史研究への実際の活用は今後の課題とした。

(4) 身体文化の多様な価値を共有するためのスポーツ・アーカイブズのモデル構築

4年間の研究成果として、課題1～5の研究成果を統合し、将来にわたり研究を継続すると共に、利活用方法の検討を行うモデルとして、研究代表者の研究機関に設置された「中京大学スポーツミュージアム」が完成した。このミュージアムの展示およびSDAは、公開までに研究課題6を担当した研究分担者によって1)アーカイブズの構築に向けた人権保障、権利義務関係並びに契約スキーム、2)多様な人々が多様な価値を共有できるモデルとなっているかどうかについて、法学の観点から検証を行ったものである。この検証を経て、SDAを用いた教育実践を実施し、モデルとしての利活用可能性を検討した。

教育実践は、オリンピックおよびオリンピズムを学習する2泊3日の合宿形式での教育活動に参加した22名の中学生・高校生を対象に、2019年12月に行った。生徒たちの学習のねらいは、主として協働性の体験、自分の考えを他者に伝え、情報を共有する、1980年モスクワ大会の時代と社会を理解する、とした。生徒たちは3つのグループに分かれ、「ミュージアムのシンボル展示である1980年モスクワ大会の金メダルが消失した」という出来事からはじまり、これを発見するまではミュージアムを脱出することができない、というストーリーに没入した。このストーリーの中で生徒たちは、メダルを発見するために謎解きに挑戦した。この謎解きでは、展示資料の注意深い観察とSDAの活用がなければ正解は得られず、3つのグループが得た正解すべてを組み合わせることによって、最終的にメダルを発見することができる設定とした。1980年モスクワ大会は、ソ連のアフガニスタン侵攻を批判したアメリカ、日本などの西側諸国が集団でボイコットした大会である。そのため、国内ではモスクワ大会のメダルは通常は目にすることができない。輝くオリンピックの背後には、時代の影も映し出されることを象徴する資料のひとつであるといえる。また「あるべきはずのメダルの消失」は、当時の選手たちの経験を身体的に共感するためのストーリーとして設定した。

ストーリーのはじまりでは、生徒たちは、上記の歴史的経緯の詳細とオリンピックにおけるこの出来事の位置づけをほとんど理解していなかった。メダルを発見した後、当時の記者会見で涙を流す日本代表選手たちの映像や閉会式でミーシャが涙を流すマスメディアの映像を交えた解説を聞くことにより、生徒たちは再度、正確な知識を学習する仕組みとした。

企画の全体は、ミュージアムという閉じられた空間でモスクワ大会のメダルに内包された身体経験と生徒たちの経験を同化させること、謎を解くという主体的行動によって知識を得ること、得た知識によって経験を意味づけること、を意識して構成するようにした。この教育実践の中で、SDAは当該資料を検索し、画像を拡大することにより、目視では確認することができない資料上の小さな文字を読み取る、展示では通常は見ることができない資料の裏側を観察して情報を得る、などの方法で活用された。また動的資料を用いたARシステムの利用を謎解きに組み込むことにより、トップレベルのアスリートのパフォーマンスを体感する経験を含めることとした。

生徒たちが取り組んだ教育活動には、この実践とは別に、オリンピズムを表現する旗を作成する表現活動が含まれていた。過去の教育活動では、旗の表現には合宿中に学んだ印象的な知識が盛り込まれる傾向がみられた。モデル検証のための実践の後、「平和」をテーマにした旗を作成したグループは、ミーシャが涙を流す絵柄をモチーフに旗を描いた。こうした表現は、モスクワ大会が「オリンピックと平和」を考える記憶として生徒たちに継承された結果であると考えることができ、検証のための教育実践の効果の一部がうかがえる結果となった。

(5) 研究成果から明らかになった課題

以上の研究成果から、スポーツ文化資源が市民の社会的資源として共有され、研究・教育・観光等に利活用されるために、今後さらに解決すべき課題として、以下の3点を指摘することができた。

SDAの利活用性の向上のためには、登録された資料に固有のストーリー(情報)を付与し、検索手段の高度化を図ることが必要である。また、国内で別々に構築・管理・運営されてきた複数のSDAを横断的に統合することが必要である。

SDAの高度化を図り、その可能性を広げるために、身体活動やパフォーマンスに関わるデータなど、従来はコンテンツとみなされてこなかったスポーツに固有の情報を組み込む必要がある。また、スポーツ資料のうち、膨大な文書資料を体系的に収集・整理保存・分析するためのスキームを構築する必要がある。

スポーツ資料の民間保有という不安定な継承形態は、貴重資料の散逸を避けがたくしているが、これを抑止するための仕組みは存在していない。SDAはスポーツの社会的価値を市民が共有するツールとしては有効であると同時に、民間保有の貴重資料の散逸を防ぐための市民の認識を向上させる教育的ツールとして利活用することが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 来田 享子	4. 巻 59
2. 論文標題 世界を映す鏡としてのオリンピックの記憶を継承する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 計測と制御	6. 最初と最後の頁 381 ~ 386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11499/sicejl.59.381	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩佐直樹・来田享子	4. 巻 33
2. 論文標題 国家公務員法第73条にもとづくレクリエーション活動の普及・発展プロセスに関する研究：1950年に制定された国家公務員レクリエーション基本方針および実施方針の作成経緯と計画内容の検討を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中京大学体育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊東佳那子・来田享子	4. 巻 33
2. 論文標題 盆踊りの禁止と復興に関する歴史的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中京大学体育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯田 貴子、藤山 新、来田 享子、風間 孝、藤原 直子、吉川 康夫	4. 巻 16
2. 論文標題 性的マイノリティについての知識に関する考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 スポーツとジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 20 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.18967/sptgender.16.0_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 61 (4-5)
2. 論文標題 「ありのままの自分」を大切に身体文化をめざす - 既存のルールや制度を疑うことで向き合える世界 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 12 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 35
2. 論文標題 スポーツとことば	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中京大学評論誌『八事』	6. 最初と最後の頁 34 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 68 (5)
2. 論文標題 規範的身体をめぐる自己 / 他者の攪乱	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育の科学	6. 最初と最後の頁 323-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 建石真公子	4. 巻 80
2. 論文標題 提供型生殖補助医療 (代理懐胎を含む) における生殖の自由の制約としての人間の尊厳および他者の人権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較法研究	6. 最初と最後の頁 217-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 建石真公子	4. 巻 1
2. 論文標題 同性愛者の権利 (LGB・SO) の権利保障の進展における私生活の尊重・人格権・差別禁止	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 『スポーツ指導に必要なLGBTの人々への配慮に関する調査研究』	6. 最初と最後の頁 8-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷努	4. 巻 39 (2)
2. 論文標題 札幌オリンピック招致ポスターから見える北海道・アイヌと内地の境界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 255 - 280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲垣浩太郎 (指導教員 瀧剛志)	4. 巻 -
2. 論文標題 棒高跳びにおける競技中のボール形状変化の可視化と選手の足跡の抽出	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度中京大学工学研究科修士論文	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村華織	4. 巻 61 (6-7)
2. 論文標題 Welcome to オリパラ 『オリンピズムで繋ぐ未来-オリンピックの歴史・理念から学び、実践へ-』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 22
2. 論文標題 ノルウェーのオリンピック・ムーブメント：リレハンメル&オスロのオリンピック展示施設の視察（2018年9月5-7日）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOA Review Online	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 22
2. 論文標題 2018年IOC Olympism in Action Forumの視察（2018年10月5-6日）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOA Review Online	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 22
2. 論文標題 2018年ブエノスアイレスYOG視察報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOA Review Online	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田原淳子、森脇保彦	4. 巻 37
2. 論文標題 ピエール・ド・クーベルタンが理解した柔術と柔道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国土館大学体育研究所報	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 15
2. 論文標題 「日テレ動画問題」JSSGS 検証ワーキンググループ中間報告：動画の何が問題なのかを考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スポーツとジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 53 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.18967/sptgender.15.0_53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 KA2018-01
2. 論文標題 幻の東京大会を願った風景と記憶に触れる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 極東書店カタログ「嘉納治五郎の見果てぬ夢 - 幻に終わったアジア初のオリンピック招致資料-」	6. 最初と最後の頁 4 - 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山翔一, 金刺廣長, 井神貴仁, 石堂典秀	4. 巻 24
2. 論文標題 ロシアの組織的ドーピング不正とリオ後のアンチ・ドーピング体制の考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本スポーツ法学会年報	6. 最初と最後の頁 120 - 143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 オリベリオ・アレックスンドロ, 石堂典秀, 高松政裕	4. 巻 28
2. 論文標題 スポーツ法の法源 : EUとCASとの関係性について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中京ロイヤー	6. 最初と最後の頁 49 - 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村華織	4. 巻 52
2. 論文標題 NPO法人体育とスポーツの図書館・中京大学同時開催 協力展示企画報告「1964年の記憶－東京オリンピックが学校に遺したもの」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育とスポーツの図書館SL通信	6. 最初と最後の頁 7 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田原淳子	4. 巻 40
2. 論文標題 DVD『ピエール・ド・クーベルタン 過去、そして現在』についての視聴者アンケート調査の結果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JOA Times	6. 最初と最後の頁 39 - 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田原淳子, 池田延行, 井上善弘, 波多野圭吾	4. 巻 36
2. 論文標題 1964年東京オリンピックに関わる教育活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国土館大学体育研究所報	6. 最初と最後の頁 79 - 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 19
2. 論文標題 バンクーバー・ウィスラーのオリンピックレガシーの旅	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JOA Times online Review	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 19
2. 論文標題 アムステルダム・オリンピックスタジアム旅行記	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JOA Times online Review	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 20
2. 論文標題 2018年平昌冬季オリンピック大会視察報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOA Times online Review	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文, 小林勝法, 後藤光将, 師岡文男	4. 巻 15
2. 論文標題 2020年東京大会のレガシー形成に寄与する大学連携の在り方に関する総合的研究: 特に2012年ロンドン PODIUMに焦点を当てて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学体育学	6. 最初と最後の頁 57 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 なし
2. 論文標題 オリンピック・パラリンピックと人権 - 「多様性と調和」の実現を目指して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人権啓発学習資料: みんなの幸せをもとめて	6. 最初と最後の頁 4 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 34
2. 論文標題 女性選手たちとメディアの黎明-刻印されるジェンダーとスポーツ・イベント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育史研究	6. 最初と最後の頁 65-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 15
2. 論文標題 社会における女性を映し出す鏡としてのオリンピック・パラリンピック	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育・スポーツ経営学研究	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 来田享子	4. 巻 146
2. 論文標題 時と場所を越えて人を繋ぐ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 スポーツマンクラブ	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 建石真公子	4. 巻 78
2. 論文標題 外国での代理懐胎における『国際人権規範』と『文化の多様性』 - ヨーロッパ人権裁判所Mennesson対フランス判決における『私生活及び家族生活の尊重』と『公序』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 比較法研究	6. 最初と最後の頁 212-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 建石真公子	4. 巻 15
2. 論文標題 スポーツ競技の公正とジェンダーのはざまを “ 本当の女性 ” をどのように証明するのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スポーツとジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 98-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.18967/sptgender.15.0_98	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石堂典秀	4. 巻 23
2. 論文標題 テコンドーに関する仲裁判断	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本スポーツ法学年報	6. 最初と最後の頁 224-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田原淳子・池田延行・波多野圭吾	4. 巻 35
2. 論文標題 第1回アジア競技大会 (1951年) への日本の参加経緯	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国土舘大学体育研究所報	6. 最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田原淳子	4. 巻 1
2. 論文標題 オリンピック史から見えてくる日本の姿	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スポーツ史研究の未来ースポーツ史学会30周年記念誌ー	6. 最初と最後の頁 171-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 39
2. 論文標題 2016年リレハンメル冬季YOG視察記	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 JQA Times	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛本直文	4. 巻 165
2. 論文標題 オリンピックの文化イベントの歴史と言語	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 30-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計75件 (うち招待講演 33件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 來田享子、伊東秀昭、石堂典秀、亀井哲也、渋谷努、瀧剛志、長谷川純一、木村華織、岩佐直樹、伊東佳那子
2. 発表標題 展示「スポーツがつなぐ世界 手のひらに届いたオリンピック」
3. 学会等名 中京大学スポーツミュージアム・第4回プレオープン展示 於 中京大学名古屋キャンパス (7/13-7/19)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 來田享子、伊東秀昭、石堂典秀、亀井哲也、渋谷努、瀧剛志、長谷川純一、木村華織、岩佐直樹、伊東佳那子
2. 発表標題 展示「スポーツがつなぐ世界 燦めきの先に - 氷雪に挑む」
3. 学会等名 中京大学スポーツミュージアム・第5回プレオープン展示 於 中京大学豊田キャンパス (10/22-11/4)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水敏男、荒井啓子
2. 発表標題 展示「ムーヴィングイメージ オリンピックの映像アーカイブズ」
3. 学会等名 於 学習院女子大学国際文化交流ギャラリー（3/19-4/26）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 來田享子
2. 発表標題 オリンピックについて
3. 学会等名 2018年度JOCオリンピック研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 來田享子
2. 発表標題 スポーツ博物館将来構想検討会報告
3. 学会等名 全日本博物館学会・日本展示学会・日本ミュージアムマネジメント学会主催緊急シンポジウム「日本のスポーツ博物館の未来を考える」 （招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 來田享子
2. 発表標題 「オリンピック」ってなんだろう
3. 学会等名 第1回熱田区スポーツ教養講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 スポーツ・デジタルアーカイブズ共同研究
3. 学会等名 中京大学第13回先端研究交流会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 博物館とのつながりがもたらすスポーツ文化の未来（コーディネーター）
3. 学会等名 日本スポーツ体育健康科学学術連合、（一社）日本体育学会主催緊急公開シンポジウム2019「我が国におけるスポーツの文化的アイデンティティ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 札幌冬季五輪招致を考える - オリンピックを教育に活かすために
3. 学会等名 中京大学校友会北海道支部学校部会研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 選手村の役割ってなんだろう？ - オリンピック史の立場から -
3. 学会等名 建築系愛知14大学共同企画展2018トークセッション（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピック教育の拡充とJOAの役割
3. 学会等名 JOA40周年記念事業第41回JOAセッション（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田拓也、伊東佳那子、来田享子
2. 発表標題 オリンピックをテーマにしたスポーツ文化財の展示による教育効果 - 来場者アンケートの結果から -
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第38回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピックにおけるスポーツの価値
3. 学会等名 JOC国際人養成アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピック論
3. 学会等名 JOCナショナルコーチアカデミー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 第20回アジア競技大会におけるレガシーについて
3. 学会等名 名古屋市役所「第20回アジア競技大会レガシーについての勉強会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 自ら考えてスポーツをすること
3. 学会等名 長野県阿知村教育委員会「スポーツ講習会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石堂典秀
2. 発表標題 エリートスポーツのサスティナビリティ：日本プロ野球を事例にして
3. 学会等名 アテネ教育・リサーチ研究所主催第18回スポーツに関する国際会議(ギリシャ・アテネ)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石堂典秀
2. 発表標題 アジアのメガスポーツイベントにおける人権デューデリジェンスのプラットフォームの可能性
3. 学会等名 全米社会科学研究会議主催「メガスポーツイベント(InterAsian Connections)」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石堂典秀
2. 発表標題 アスリートとハラスメント・暴力への対策
3. 学会等名 日本スポーツ法学会第26回学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石堂典秀、大橋卓生、高松正裕
2. 発表標題 パラリンピック競技のクラス分けシステムに関する法的問題点
3. 学会等名 日本スポーツ法学会第26回学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 建石真公子
2. 発表標題 ヒト生殖細胞ゲノム編集に関する法規範定立において考慮すべき人権の考察
3. 学会等名 日本生命倫理学会学会企画シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 オリンピック教育 継続と充実（企画・コーディネート）
3. 学会等名 J0A40周年記念事業第41回J0Aセッション
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 教育実践「オリンピック・ビレッジ資料を用いた子ども向けワークショップ」
3. 学会等名 於 パナソニックセンター東京
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 展示「バドミントン文化史展示 - 1960 - 70年代の日本女子黄金期を築いた3人の女性アスリート」
3. 学会等名 於 武蔵野の森総合スポーツプラザ メインアリーナ (9/11-9/16)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒牧亜衣
2. 発表標題 聖火リレーの記録と記憶：1964年東京大会関連資料を対象に
3. 学会等名 日本体育学会体育哲学専門領域定例研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ai Aramaki
2. 発表標題 What the Olympic Games bring to the community: Focusing on the Nagano Winter Olympics and the 2020 Tokyo Olympics
3. 学会等名 2018 International Conference of the Asian Society of Sport Policy, Seoul campus, Hanyang University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mami Iwata, Tsuyoshi Taki
2. 発表標題 Modeling of Olympic Medals Based on Point Cloud Data Registration between two sides of the same medal
3. 学会等名 Nicograph International 2018, Tainan, Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kotaro Inagaki, Tsuyoshi Taki
2. 発表標題 Preliminary study to quantify the shape change of the pole in pole vaulting - detection of the pole from video
3. 学会等名 Nicograph International 2018, Tainan, Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 オリンピックのスポーツ文化と歴史
3. 学会等名 愛知県教育委員会国際ボランティア養成講座 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 効率の良い身体の動かし方
3. 学会等名 長野県阿知村教育委員会「スポーツ講習会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 見て、聞いて、体験して学ぶ、オリンピック
3. 学会等名 みよし市三好丘子ども会主催講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 オリンピックと未来
3. 学会等名 日本オリンピック・アカデミー主催JOAユースセッション2018 in 中京（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 日本女子スイマーの歴史と前畑秀子女史の生涯に学ぶ
3. 学会等名 公益財団法人日本水泳連盟2018年度水泳指導者スキルアップセミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KAMEI, Tetsuya
2. 発表標題 Introduction of Chukyo University Sports Museum
3. 学会等名 the 13th Olympic Museum Network General Assembly Gothenburg Sports Museum, Gothenburg SWEDEN 4th Sep. 2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 舛本直文
2. 発表標題 「オリンピック休戦賛同のサインの壁」の可視化と教育的活用
3. 学会等名 日本体育学会体育哲学専門領域夏期合宿研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 來田享子, 伊東秀昭, 石堂典秀, 亀井哲也, 渋谷努, 瀧剛志, 長谷川純一, 木村華織, 岩佐直樹, 伊東佳那子
2. 発表標題 中京大学スポーツ・ミュージアム プレオープン展示「スポーツがつなく世界 1964年の記憶」
3. 学会等名 於 中京大学豊田キャンパス (10月23日 - 11月5日)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井啓子, 清水敏男
2. 発表標題 展示「五輪メモリーズ 私のオリンピック東京大会1964」
3. 学会等名 於 学習院女子大学国際文化交流ギャラリー (3月5日 - 4月21日)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 跡見順子, 菊池吉晃, 大築立志, 海老原修, 來田享子
2. 発表標題 自己と他者を尊重する体育・スポーツを問うために - 細胞から社会までを一貫する学際的基盤
3. 学会等名 日本スポーツ体育健康科学学術連合第2回大会 (於 静岡県男女共同参画センター あざれあ) 2017年9月7日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊東佳那子, 来田享子
2. 発表標題 1874年禁止令以降の岐阜県における盆踊りの実施状況－行政文書と1897年までの岐阜日日新聞の検討を中心に－
3. 学会等名 スポーツ史学会第31回大会 (於 日本女子大学) 2017年12月3日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピックにおけるスポーツの価値
3. 学会等名 2017年度JOC国際人養成アカデミー (於 ナショナルトレーニングセンター) 2018年3月17日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kyoko Raita
2. 発表標題 Performance of Female Athletes in the Olympic Games and Gender Equality in Society: An International Comparison
3. 学会等名 Gender Summit 10 - Asia Pacific 2017 (Hitotsubashi Hall, Tokyo) May25-26, 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 来田享子, 田附俊一
2. 発表標題 スポーツの社会的機能を活用して社会の発展に寄与する授業の提案
3. 学会等名 私立大学情報教育協会 社会福祉学・社会学・教育学・体育学分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 (於 早稲田大学) 2017年12月16日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 国際女子スポーツ連盟（FSFI）にみる1920-30年代の女性スポーツの国際化と組織化 - 1921-1936年の規約および議事録を史料として -
3. 学会等名 スポーツ史学会第31回大会（於 日本女子大学）2017年12月3日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Ito, Kazuki Miyazato, Kenshiro Ishikawa, Tsuyoshi Taki, Junichi Hasegawa, Kyoko Raita
2. 発表標題 Structure and retrieval mechanism of a minutes retrieval system
3. 学会等名 Intelligent Engineering Systems (INES), 2017 IEEE 21st International Conference on, pp.291-296, 20-23 Oct. 2017, Larnaca, Cyprus (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Norihide Ishido
2. 発表標題 Sport governance in Japan, Governance in Sport and the Olympic Movement
3. 学会等名 International Olympic Academy, 12 th International Session for Educators of Higher Institutes of Physical Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石堂典秀, 下出太平, 金刺廣長, 井神貴仁, 兼村知孝
2. 発表標題 サプリメント摂取によるドーピング違反の危険性と法的課題
3. 学会等名 日本スポーツ法学会第25回大会（於 同志社大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 オリンピック史料の活用例 - 大学講義の場合
3. 学会等名 筑波大学全学対象教養科目全9回における教育実践
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 スポーツ史料の活用例－競技イベントでの場合
3. 学会等名 ダイハツ・ヨネックスオープンジャパン2017会場における教育実践
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 オリンピック及びスポーツ関連史料の有用性に関する啓発
3. 学会等名 日本体育協会公認コーチ養成講習会（バドミントン競技）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 スポーツ史料の活用例－市民向けイベントの場合
3. 学会等名 東京都北区教育委員会主催シンポジウム（2018年2月11日）における教育実践
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mami Iwata, Tsuyoshi Taki
2. 発表標題 Modeling of Olympic Medals Based on Point Cloud Data Registration between two sides of the same medal
3. 学会等名 Nicograph International 2018, Tainan, Taiwan (June 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kotaro Inagaki, Tsuyoshi Taki
2. 発表標題 Preliminary study to quantify the shape change of the pole in pole vaulting - detection of the pole from video -
3. 学会等名 Nicograph International 2018, Tainan, Taiwan (June 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kyoko Raita
2. 発表標題 Research and support activities and policy for athletes in Japan
3. 学会等名 International Seminar on University and/or Supporting Policy for Athletes in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 來田享子
2. 発表標題 身体への介入としての科学-スポーツにおける性別確認検査を中心に-
3. 学会等名 法政大学現代法研究プロジェクト報告
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 女性選手たちとメディアの黎明-刻印されるジェンダーとスポーツ・イベント
3. 学会等名 日本体育学会第67回大会体育史専門領域シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピックについて
3. 学会等名 2016年度JOCオリンピック研修会名古屋会場（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 多様な人々がかかわるオリンピック・ムーブメントをめざして
3. 学会等名 平成28年度兵庫体育・スポーツ科学学会シンポジウム 基調講演（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 来田享子
2. 発表標題 オリンピックについて
3. 学会等名 2016年度JOCオリンピック研修会東京会場（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 来田享子・亀井哲也
2. 発表標題 展示「スポーツの価値を高めるために」
3. 学会等名 中京大学公開講座（6月9日）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 来田享子・亀井哲也・平見俊之・和田拓也
2. 発表標題 展示「スポーツがつなく世界 学びと支援が高める共感」
3. 学会等名 中京大学スポーツ・ミュージアム プレオープン展示（11月4-6日）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiroko Tateishi
2. 発表標題 Le role du droit en matiere de l' assistance medicale a la procreation-Delimiter et justifier le choix
3. 学会等名 Journee Internationale des droits de la Femme: Journee Franco-Japonaise: Bioethique & Droits Fondamentaux Les droits de la procreation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ShuntaMizutani,Tsuyoshi Taki, Junichi Hasegawa
2. 発表標題 Visualization of Acceleration Ability of Athlete
3. 学会等名 Nicograph International 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 水谷駿太, 味岡拓也, 瀧 剛志, 長谷川純一
2. 発表標題 サッカー選手の加速能力のモデル化とその応用
3. 学会等名 映像情報メディア学会スポーツ情報処理時限研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石堂典秀ほか
2. 発表標題 リオ五輪、パラリンピックにおけるロシアの競技者の参加資格をめぐる一連の仲裁判断の内容と今後のアンチ・ドーピング耐性について
3. 学会等名 日本スポーツ法学会第24回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石堂典秀ほか
2. 発表標題 CAS Cases regarding the Russia Doping Scandal and the Impact on the WADA Scheme
3. 学会等名 アジアスポーツ法学会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Ito, Kazuki Miyazato, Kensiro Ishikawa, Tsuyoshi Taki, Junichi Hasegawa and Kyoko Raita
2. 発表標題 Analyzing Elements of Letters in a Letter Management System
3. 学会等名 4th International Conference on Applied Computing and Information Technology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naofumi Masumoto
2. 発表標題 Olympic Education to Promote Peaceful and Inclusive Societies
3. 学会等名 2016 International Olympic Academy 13th NOC & NOA Joint Session (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naofumi Masumoto
2. 発表標題 Olympism and Chatacter in Sports
3. 学会等名 2016 Sportd and Environment Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 舛本直文
2. 発表標題 平和とインクルーシブな社会を推進するためのオリンピック教育
3. 学会等名 日本オリンピック・アカデミー2016セミナー (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田原淳子
2. 発表標題 オリンピック史研究から見えてくる日本の姿
3. 学会等名 スポーツ史学会30周年記念シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 教育実践「トーチの花を咲かせよう！」
3. 学会等名 パナソニックワークショップ（於 パナソニックセンター東京）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 聖火 その価値と活用
3. 学会等名 2016年度JOAセッション（於 立教大学）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嵯峨寿
2. 発表標題 教育実践「聖火が、北区にやって来た！」
3. 学会等名 東京都北区主催イベント（赤羽体育館）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒井啓子・清水敏男
2. 発表標題 展示「ゴールするランナーたち オリンピックと芸術」
3. 学会等名 学習院女子大学文化交流ギャラリー（10月18日-11月23日）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木村華織
2. 発表標題 展示「愛知が生んだ女性オリンピック展」
3. 学会等名 NPO法人体育とスポーツの図書館（10月10-16日、10月21-23日）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 掛水通子監修、山田理恵・及川佑介・藤坂由美子編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 叢文社	5. 総ページ数 458
3. 書名 身体文化論を繋ぐ（来田享子担当箇所pp.117-137、田原淳子担当箇所pp.291-295、木村華織担当箇所pp.93-116）	

1. 著者名 レイチェル・イグノトフスキー著、野中 モモ訳、来田享子監訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 128
3. 書名 歴史を変えた50人の女性アスリートたち	

1. 著者名 一般社団法人 日本体育学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 416
3. 書名 スポーツが得意な子に育つたのしいお話365（来田享子、田原淳子担当項含）	

1. 著者名 石堂 典秀、建石 真公子、新井 喜代加、川井 圭司、石井 信輝、大川 謙蔵、來田 享子、小川 和茂、武田 丈太郎、高松 政裕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 266
3. 書名 スポーツ法へのファーストステップ	

1. 著者名 小畑 郁、江島 晶子、北村 泰三、建石 真公子、戸波 江二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 572
3. 書名 ヨーロッパ人権裁判所の判例	

1. 著者名 Ccile Gurin-Bargues, Hajime Yamamoto(sous la direction), Hiroko Tateishi et.al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Mare & martin	5. 総ページ数 344
3. 書名 Aux sources nouvelles du droit (Hiroko Tateishi, pp.237-258)	

1. 著者名 舛本 直文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 184
3. 書名 決定版 これがオリンピックだ オリンピズムがわかる100の真実	

1. 著者名 日本オリンピック・アカデミー編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディア・パル	5. 総ページ数 352
3. 書名 JOAオリンピック小事典2020増補改訂版（舛本直文、田原淳子、來田享子担当箇所含む）	

1. 著者名 菅原哲朗・森川貞夫・浦川道太郎・望月浩一郎 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青林書院	5. 総ページ数 352
3. 書名 スポーツの法律相談	

1. 著者名 辻村みよ子・糠塚康江・建石真公子・大津浩・曾我部真裕 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 380
3. 書名 社会変動と人権の現代的保障【講座 政治・社会の変動と憲法 フランス憲法からの展望 第 巻】	

1. 著者名 飯田貴子・熊安貴美江・來田享子編著，建石真公子・田原淳子・木村華織ほか著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ	5. 総ページ数 224
3. 書名 よくわかるスポーツとジェンダー	

1. 著者名 来田享子・亀井哲也・和田拓也 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中京大学スポーツ博物館準備室	5. 総ページ数 20
3. 書名 スポーツがつなく世界 1964年の記憶 : 中京大学スポーツミュージアム第3回プレ・オープン展示図録	

1. 著者名 亀井哲也 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中京大学現代社会学部	5. 総ページ数 37
3. 書名 中京大学現代社会学部収蔵民族資料目録	

1. 著者名 亀井哲也 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中京大学現代社会学部	5. 総ページ数 55
3. 書名 中京大学スポーツ科学部スポーツ博物館準備室収蔵資料目録	

1. 著者名 日本オリンピック・アカデミー編、来田享子・嵯峨寿・田原淳子・舛本直文ほか著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 メディア・パル	5. 総ページ数 360
3. 書名 JOAオリンピック小事典	

1. 著者名 石堂典秀・大友昌子・木村華織・來田享子編著、亀井哲也・渋谷努ほか著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 252
3. 書名 知の饗宴としてのオリンピック	

1. 著者名 友添秀則編著 田原淳子・來田享子ほか著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 よくわかるスポーツ倫理学	

1. 著者名 辻村みよ子編集代表 糠塚康江・建石真公子・大津浩・曾我部真裕編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 380
3. 書名 社会変動と人権の現代保障 講座 政治・社会の変動と憲法－フランス憲法からの展望 第 巻	

1. 著者名 川崎政司・大沢秀介編著、建石真公子ほか著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 尚学社	5. 総ページ数 430
3. 書名 現代統治構造の動態と展望 - 法形成をめぐる政治と法	

1. 著者名 北村泰三・西海真樹編著、建石真公子ほか著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央大学比較法研究所	5. 総ページ数 374
3. 書名 文化多様性と国際法 - 人権と開発の視点から	

1. 著者名 憲法理論研究会著（建石真公子ほか）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 敬文堂	5. 総ページ数 344
3. 書名 対話的憲法理論の展開	

1. 著者名 中京大学社会科学研究所ロシア研究部会編、石堂典秀ほか著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 成文社	5. 総ページ数 255
3. 書名 ロシアの現在－社会的・文化的諸相－	

1. 著者名 日本スポーツ法学会監修、浦川道太郎、吉田勝光、石堂典秀、松本泰介、入沢充編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 356
3. 書名 標準テキストスポーツ法学	

1. 著者名 望月浩一郎監修、菅原哲朗、森川貞夫、浦川道太郎編、石堂典秀ほか著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青林書院	5. 総ページ数 352
3. 書名 スポーツの法律相談（最新青林法律相談）	

1. 著者名 日本スポーツとジェンダー学会編、木村華織・來田享子ほか著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 データでみるスポーツとジェンダー	

1. 著者名 舛本直文（監修）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ポプラ社	5. 総ページ数 47
3. 書名 写真で見るオリンピック大百科6：2014年冬季ソチ-2016年リオデジャネイロ	

1. 著者名 玉川大学教育学部健康教育研究センター監修、川崎登志喜編著、舛本直文ほか著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 176
3. 書名 教養としての健康・スポーツ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 秀昭 (Ito Hideaki) (10223174)	中京大学・工学部・教授 (33908)	
研究分担者	石堂 典秀 (Ishido Norihide) (20277247)	中京大学・スポーツ科学部・教授 (33908)	
研究分担者	建石 真公子 (Tateishi Hiroko) (20308795)	法政大学・法学部・教授 (32675)	
研究分担者	長谷川 純一 (Hasegawa Junichi) (30126891)	中京大学・工学部・教授 (33908)	
研究分担者	嵯峨 寿 (Saga Hitoshi) (30261788)	筑波大学・体育系・准教授 (12102)	
研究分担者	渋谷 努 (Shibuya Tsutomu) (30312523)	中京大学・国際教養学部・教授 (33908)	
研究分担者	荒牧 亜衣 (Ai Aramaki) (30507851)	仙台大学・体育学部・講師 (31301)	
研究分担者	瀧 剛志 (Tsuyoshi Taki) (40319223)	中京大学・工学部・教授 (33908)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 啓子 (Arai Keiko) (50082938)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	
研究分担者	木村 華織 (Kimura Kaori) (50634581)	東海学園大学・スポーツ健康科学部・講師 (33929)	
研究分担者	亀井 哲也 (Kamei Testuya) (60468238)	中京大学・現代社会学部・教授 (33908)	
研究分担者	舩本 直文 (Masumoto Naofumi) (70145663)	首都大学東京・オープンユニバーシティ・特任教授 (22604)	
研究分担者	田原 淳子 (Tahara Junko) (70207207)	国士舘大学・体育学部・教授 (32616)	
研究分担者	清水 敏男 (Shimizu Toshio) (70386796)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	
研究分担者	伊東 佳那子 (Ito Kanako) (80804913)	中京大学・体育学研究科・実験実習助手 (33908)	
研究分担者	岩佐 直樹 (Iwasa Naoki) (90736381)	朝日大学・保健医療学部・助教 (33703)	

6. 研究組織(つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	真田 久 (Sanada Hisashi) (30154123)	筑波大学・体育系・教授 (12102)	
研究 協 力 者	新名 佐知子 (Niina Sachiko)		